

気づいて一歩ふみだすための人権シリーズ ④

誰もがその人らしく

— LGBT —



この作品は、主人公の周りにいたけれども見えなかったLGBT(性的少数者)の人たちが見えてくるストーリーです。LGBTの人たちに対する社会の偏見はまだ強く、存在していてもなかなか見えない、その存在を見だしにくいのが現状です。しかし、各種の統計からも明らかなように、LGBTの人たちは確かに存在し偏見や差別に苦しんでいます。

このDVDを視聴したあなたの身近にもそうした人々がいるかもしれません。LGBTの問題は他人事ではなく、タイトルにあるように、誰もが自分らしく生きることを考えていくうえで、あまねく全ての人々に関わりのある問題だと思います。LGBTの人を別のカテゴリーの人と見ずに、自分とも続く性のグラデーションのなかで、たまたまその位置にいる人々というふうに客観視できれば、LGBTの人たちへの見方もひろがり、誰もが生きやすい社会をつくる一歩になるのではないのでしょうか。

上映時間20分 [C#3256]

DVD 本体価格 66,000円(税抜)

解説書・チェックシート付き

字幕・副音声版付き



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17

<http://www.toei.co.jp/edu/>

誰もがその人らしく

— LGBT —

○この作品は、**チャプターごと**にドラマと振り返り解説が展開していく形で構成されています。

チャプター① —LGBT(性的少数者)に対するセクシュアルハラスメント—

会社員の蓮尾沙奈は仕事も熱心だが人権についても興味を持っている。ある日、部長の鳥飼研治が沙奈の先輩社員である正岡紀明が結婚する話題で性的少数者を揶揄する発言をする。また、別の日には、部長が無神経に、沙奈を「女子力の低さ」という言葉でからかってくる。紀明は、部長に、その発言はセクシュアルハラスメントにつながると注意する。LGBTの人をからかうような仕草や言葉などはセクシュアルハラスメントにつながるのだ。



チャプター② —性のグラデーション—

沙奈がいつも覗く花屋には、さわやかな男性店員がいるのだが、ある日、その店員が女性のように薄い化粧をしていることに沙奈は驚く。会社で同僚の森笑里とそのことについて話題にする。LGBTをテーマにした社内の人権研修に参加した笑里は、LGBTの割合が、一説によると左利きの人と同じぐらいだということを語ると、部長も反応をみせる。セクシュアリティーはグラデーションになっており、どこからどこまでがLGBTと明確には分けられないということを、沙奈も理解していく。



チャプター③ —カミングアウトとアウティング—

ある日、沙奈は、紀明が男性とデートしているのを目撃する。紀明は、しばらく会社を休んだ後、入社してきて沙奈と笑里を屋上に誘う。紀明は、自分がゲイであることを二人に告白する(カミングアウト)。学生時代に、仲のよい友達に悩んだ末に自分がゲイであることを打ち明けたら言いふらされたこと(アウティング)がトラウマになっていて、今回もそれを恐れていたとのこと。しかし、沙奈が言いふらさなかったことで沙奈に信頼をよせた。カミングアウトすることは本人が決めることで、他者が本人の確認をとらずにアウティングすることは大きな人権侵害につながる。



チャプター④ —誰もがその人らしく—

紀明はシンガポールに赴任することになる。笑里と沙奈はアライ(LGBTの理解者)になり、社内の風土をかえていくことを宣言する。部長も、自分が左利きで無理な矯正をさせられた思いを語り、少しずつ、LGBTについての理解を深めていく。沙奈は、花屋で男性店員と交わす会話の中から、違いを認め合い、誰もがその人らしく生きることの大切さを改めて見出ししていく。



プロデューサー 中鉢裕幸
 脚本 山上梨香
 撮影 笠原 晋
 照明 笠 真吾
 録音 八木重憲
 監督・編集 越坂康史

制作協力 オープンアイズ合同会社
 企画・制作 東映株式会社 教育映像部